

# 宝塚すみれ発電 輝く



市所有の斜面に設置された「宝塚すみれ発電」の太陽光パネル（宝塚市で）

## あましん環境表彰最優秀賞

太陽光発電パネルを並べた市民発電所を次々と開設している株式会社「宝塚すみれ発電」（宝塚市）が、環境問題への取り組みを表彰する尼崎信用金庫の「あましんグリーンプレミアム」で今年度の最優秀賞に選ばれた。東日本大震災での原発事故をきっかけに始め、今は宝塚市内を中心に6か所。総発電能力は約186キロワットで、年間発電量にすると標準家庭60軒分ほどというが、市民農園の上に設置するなど新たな試みにも挑戦している。（協孝之）

東日本大震災の3か月後、宝塚すみれ発電社長の井上保子さん（58）らが「再生可能エネルギーによるまちづくりをしてほしい」と宝塚市長に要望書、市議会に請願を提出。請願は採択されるとともに翌2012年4月、市に新エネルギー推進課（現地域エネルギー課）ができた。

市とともに再生可能エネルギーの普及を進めるため、井上さんら約10人がこの年、NPO法人「新エネルギーをすすめる宝塚の会」を設立。太陽光発電の

施工・販売会社に相談したところ、「発電所を作ったら」と言われた。さっそく計画を練り、同12月、宝塚市西谷地区の耕作放棄地で、約20人が敷石150個やパネル51枚を並べて手作りで完成。発電能力は11キロワットと3軒分ながら第一歩を踏み出した。

翌年、2か所目（約15軒分）を作る際に設立したのが「宝塚すみれ発電」。NPOでは融資を受けにくいのが理由だった。当初は合同会社、その後、株式会社にしたが、定款に「剰余金は配

当せず、再生可能エネルギーの普及・啓発に使う」と記し、非営利型を表明。建設費約1800万円は融資や社債でまかなった。

3か所目（約14軒分）は

同市山手台東にある市所有  
 大本山成田山直系（県内唯一）

**初詣** 西脇市 成田山  
西脇市小坂町

の斜面地に設置。「再生可能エネルギーの利用の推進に関する基本条例」を14年に制定した市が、モデル事業として建設資金の補助などで協力した。

同市西谷地区の市民農園の上に設けたのが4か所目（約15軒分）。金属パイプを組んだ高さ約2分の空間に180枚のパネルを間隔

を開けて並べた。地面では農業、その上で発電をするアイデアで、グリーンプレミアムでは地域と連携した点が評価された。今後も発電所を増やす予定で、井上さんは「自分たちでエネルギーを作れば安心して生活できる。子孫に再生可能エネルギーを使った暮らしを残したい」と話している。